

## 「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」 中間評価結果

大学名	九州大学
-----	------

(総括評価) <b>A</b>	これまでの取組状況を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
--------------------	--------------------------------------------

### (コメント)

本構想は、「人間性の原則」、「社会性の原則」、「国際性の原則」、「専門性の原則」の教育理念の上に、地理的・歴史的特性に基づく「アジア重視戦略」を打ち出し、入口から出口までの一貫した国際化拠点を整備する世界に開かれた大学づくりの一環であり、全ての分野での国際コースの開設及び平成32年度までの全学部横断的に英語による教養教育を行う「国際教養学部」創設を目指すきわめて挑戦的なものである。

産業界等外部委員を加えた「国際交流総合企画会議」により期待される留学生像を描き、具体の対応を検討し、さらに留学生等からなる「国際化学学生委員会」による意見・提言に基づき、さらに外国人教員の意見を取り入れる仕組みを設け、国際キャンパス化を図る工夫が展開されている。

アジア重視戦略を踏まえながらの受け入れ重点国（8か国・地域）を明確化し、過去2か年の間に海外の60以上の高校等での留学プロモーションを展開し、資源の有効投入を行っている。さらに質の高い留学生獲得戦略として補完的に「国際化100人委員会（国際的に活躍するスター研究者）」の国際ネットワークを活用する施策も展開している。海外拠点も増やすなどの整備を行っている。学士課程国際コースの志願者も平成23年度には79名と着実に増加している。

英語による国際コースについて、学士課程では農学部と工学部で開設・受け入れが進み、大学院課程（学府）では「全学府での国際コース」の開設・受け入れが展開されている。外国人教員の任用も積極的に行われ、欧米からの教員の獲得に成功している。加えて農学部の国際コースに代表されるように、平成23年度入試からSATや日本留学試験を課すなどの改善が行われ、優れた留学生の確保に成功している。その意味で奨学金施策とあいまって、欧米との留学生獲得競争にも十分に伍している（インドネシアの新入生インタビューより）。

寮の整備と大学指定宿舎制度の充実、留学生等のワンストップサービス支援体制の整備充実も着実に進められている。

海外大学共同利用事務所であるカイロオフィスで計画されていた日本留学フェアについては、政治情勢の悪化により延期を余儀なくされたが、平成24年の開催に向け準備が進められているとともに、さらに機能を強化するための準備が進められている。

以上のような特色ある取組みを実施していることにより、平成22年度末ですでに目標（1,500名）を上回る2,122名の留学生を受け入れ（留学生比率11.3%）、外国人教員数も目標（150名）を達成しており、今後の発展についても大いに期待できる。

なお、日本人学生の派遣について語学力の向上、交流プログラムの開発などが期待される。また、外国人教員の採用にあたっては、研究条件についての配慮、彼らの授業のFDへの活用、契約が終了した後の取り扱いなど、外国人教員の採用について今後どのように考えるか、大学としての適切な判断が求められる。